

## 令和2年度 第3回大野市人口減少対策会議 議事メモ

日時：11月17日(火) 10時～11時45分

場所：結とぴあ 305・306号室(3階)

○出席委員 全27名中22名

○石山市長、田中副市長、久保教育長、企画総務部長、政策局長、民生環境部長、  
産経建設部長、産経建設部理事、教育委員会事務局長、消防長、総合政策課員(事務局)

(加藤総合政策課長の司会進行により開会。大野市役所における働き方改革の一環として、  
会議時間の終了予定を11時30分とし、活発な意見交換を依頼)

10:00開会

### 1 市長あいさつ

- ・この会議の委員の中にも、総合戦略の基礎となる総合計画の策定に関わっていただいている方が多くいらっしゃる。取り組みに対し、感謝申し上げます。
- ・市内の各団体などが新型コロナウイルス対策にご尽力いただいていることにも感謝している。今後、インフルエンザの流行シーズンにも入るので、より一層の注意をお願いしたい。
- ・本日は限られた時間の中ではあるが、忌憚のないご意見をいただくことをお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。

### 2 開会

(委員長あいさつ)

- ・北陸新幹線の福井・敦賀開業が少し遅れるとの報道はあるが、大野市としては、中部縦貫自動車道や道の駅の整備が進んでいるという明るい話題がある。
- ・今回、総合戦略の議論も佳境を迎える。委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただくことを願います。

### 3 報告確認事項

(1) 委員等紹介

※別紙委員名簿のとおり、交代委員、本日の欠席委員の報告

#### 4 協議および説明事項

##### (1) 大野市人口ビジョン（令和2年度改訂版）について

（資料1について説明後、質疑応答）

（説明概要）

- ・位置付けは基本的にこれまでと変わらない。対象期間は、国が2060年までを示しているのに対し、国のガイドラインに従い、市は2045年としている。
- ・自然増減の将来展望に関しては、国や県の方針は2030年に出生率1.80程度、2040年に2.07程度を目指すという考え方を変えていない。市独自の施策展開に加え、国や県の強力な取組みにも期待し、同様の出生率上昇を目指すこととした。
- ・社会増減については、地方への移住に関する国民の関心や希望は高い水準にあると考えられることから、中部縦貫自動車道の県内全線開通など、これからのよい環境が整ってくることを考慮し、当初の人口ビジョンの考え方を大切にして、2040年に転出超過を社人研推計に対し100人抑制することを段階的に目指すこととした。
- ・その結果、第2期大野市総合戦略の目標年である令和7年（2025年）の定住人口を29,000人、第六次大野市総合計画の目標年である令和12年（2030年）の定住人口を27,300人、令和27年（2045年）の定住人口を23,200人とすることを目標に定めたい。

（意見、質疑）

委員：各グラフに表記されている数値が重なっていて読めない部分が見受けられるため、修正してもらいたい。

大野市：対応する。

委員長：全体としてある程度納得できる目標人口かと思う。

##### (2) 第2期大野市総合戦略について

（資料2について説明後、質疑応答）

（説明概要）

- ・戦略の位置付けとして、第六次大野市総合計画が上位計画としてある。また、その中にはSDGsの考えも採り入れられており、このうち人口減少対策と捉えられる施策をまとめた計画としていることを示している。
- ・対象期間としては総合計画前期基本計画と同様、令和3～7年の5年間。
- ・将来像に、具体的な目標人口を示しており、令和7年（2025年）年に定住人口29,000人、令和12年（2030年）に27,300人、令和27年（2045年）に23,200人としている。これは人口ビジョンで説明した通り。
- ・第1期総合戦略での取り組み、課題を踏まえ、第2期戦略の方向性を、「地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する」「新しいひとの流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「時代に合った活力ある地域をつくり、地

域と地域を連携する」とし、「中部縦貫自動車道県内全線開通、北陸新幹線福井・敦賀開業など高速交通網の整備を見据えた取り組み」「SDGs、デジタル化、ニューノーマルなど新時代への対応」の2つを横断的な観点としたい。

- ・施策全体として、11月5日に総合計画審議会を開催し、前期基本計画についてお示しした内容から、総合戦略として合うものを抽出している。ただし、当日いただいたご意見を基に総合計画自体を修正しているところであり、現時点は審議会にお諮りした時点の内容を盛り込んでいる。

(意見、質疑)

委員：子育て世代への支援として、結婚に関する支援がない。第1期で取り組んできたが、第2期では取り組まないのか。

大野市：既存の市の婚活イベントが若者に受け入れられなかったため、第1期の途中で、自然な出会いを促進する方針に転換した。現在は、福井県が婚活事業に取り組み始めており、婚活アプリを開発し、来年度から提供する予定。県全体で出会いの場の創出も行われる予定。こうしたことから市独自の事業はないため、総合戦略にどのような表現を用いるかは今後検討したい。

委員長：若者の交流という形で何か盛り込めないか事務局と相談したい。

委員：市外の若者に大野への移住を勧めると、雪のことや出産できる病院がないことを気にする。生活していく中で課題となる部分を克服できるよう取り組んでいることが見えるようになると、移住のアピールにつながると思う。

委員長：医療系の取り組みについても何もしないというわけではないので、表現できることがないか考慮したい。

委員：SDGsについて、総合戦略に関係するゴールを示すと良い。

委員長：すべてのゴールが関係するわけではないが、関係するものを「見える化」できるよう考えたい。

委員：学校再編は人口減少対策に大きく影響すると考える。急激な再編は景気の衰退にもつながるため、なだらかな再編を考慮してもらいたい。総合戦略に学校再編について書き込むことは難しいと理解はしている。

委員：KPIが多すぎると感じる。また、人口減少対策に結びつかないような指標も見受けられる。各施策が自然増減、社会増減にどう結び付くかという観点で考え直してもらいたい。また、ここにお集まりの各界各層の皆さんで、若者の移住定住を延ばすために自分たちができることを考えてはどうか。議会でも人口減少対策特別委員会でも引き続き議論していきたい。

委員長：結局、だれが取り組むのかというのが大事。人口減少対策で頼りになるのは、よそ者などでなく地域の本物、市民自身だと思う。

総合戦略の基礎となる総合計画の修正作業が続いているため、今日のご意見や、12月に実施する総合計画のパブリックコメントなども踏まえ、最終的な素案は事務局と私の間で調整させていただきたいと考えるがいかがか。

(委員了承)

### (3) 専門部会の報告について

(資料3-1「大野市人口減少対策会議専門部会 ブランド部会 報告書」及び資料3-2「大野市人口減少対策会議専門部会 地域づくり部会 報告書」について説明後、質疑応答)

(説明概要)

・別添報告書のとおり説明

(意見、質疑)

委員：新しい道の駅は、最初は珍しさもあって賑わうだろうが、賑わいを継続するには、まちなかから道の駅まで行けるような手立てがあると良いと思う。40歳代の福井市への転出に対して、どういった手立てがあるかお聞きしたい。

委員長：産業の活性化が大事だと思うが、他の委員の意見をお聞きしたい。

委員：強い企業を呼び込むことと地場産業を盛り上げることの両面が重要。コロナでリモートワークなどが進んでいる。これをチャンスと捉えて、大野への移住を進めることが必要。

ブランド部会の提案に対し、意見がある。道の駅はモンベルブランドの集客力が頼り。市もモンベルとの連携を十分図ってほしい。

## 5 その他

市長：基本的な路線を委員の皆様と再度共有したい。人口ビジョンの中で、大野市は人口減少の第2・第3段階に入っていること、また、人口減少に歯止めをかける積極戦略と人口減少に対応する調整戦略を同時に推進することが述べられている。これまでの総合戦略は積極戦略を重視して取り組んできたが、第2期の総合戦略は、調整戦略の面も踏まえて対策を進めていかなければならない。今年度、地域づくり部会を設けたのも、こうした考えから。今日頂いたご意見を、総合計画と総合戦略の両方に反映していきたい。今後とも委員の皆様のご協力をお願いしたい。

## 6 閉会

(副委員長あいさつ)

・市内の高校生が、市の人口減少問題や自分たちの将来をどう考えているか意見を聞く機会を作ってほしい。

11：45閉会